

坂の上通信

令和元年六月二十日
広島市立美鈴が丘高等学校
新聞文化部(四〇三演習室)

文化祭 雨でも賑わい

警報出ず 無事終了

6月15日(土)、文化祭の一般公開が行われた。雨天ではあったが今年も大勢の来場者があり、校内は活気に包まれていた。

クラス

美高では、食品バザーは3年生のみが行うこと

とができる。したがって、1・2年生では各クラスとも工夫を凝らした企画が行われる。1年生は初めての文



3年生は、全クラスで食品バザーを開いた

会長おつかれさま

文化祭が終わると新しい生徒会に交代となる。仕事を終えた生徒会長岡崎悠矢君にインタビューを行った。

今年の文化祭はどうでしたか？

3年生は全クラスが

完売し、また1・2年生はどれも面白い企画でした。何よりも怪我がなかったのが良かったです。雨は降りましたが、心配だった警報は出ず、いい文化祭になったと思います。

一次の生徒会に一言。自分達の個性を活かして、学校のために頑張ってください。

えた感想は？

学校生活はたくさんの人に支えられていいます。その支えてくれた人達に感謝したいと思っています。また頑張れたいと思います。

2年生は昨年の経験を活かし、企画の幅がさらに広がったように感じられた。1組の体育館を使ったバツティングセンターや5組のすごろく風のゲームなどアイデアの勝利とも言える企画が多かった。

3年生は、全クラスで食品バザーが行われた。中でも定番のチュロスや焼き鳥などは、大きな行列が出来ていた。一般公開が始まるのは9時30分からだが開始から2時間も経たずに完売したメニューもあった。



「平成から令和へ」をテーマにした、書道部の大書

文化部

文化祭は、文化系の魅せ場でもある。いつもの活動を生徒や保護者に見てもらいたい機会であるため、どの部の展示・発表も意気込みが感じられた。

美術部は、作品の展示や美術部員手作りの缶バッジやうちわの販売を行った。缶バッジは、自分で作れるコーナーも設けており、挑戦している人もいた。

科学部では、ピタゴラスイッチを実演したり、プラネタリウムを設置し上映したりと、知的好奇心が掻き立てられるような展示だった。また、亀とハムスターの展示も合わせて行っており、見る人を笑顔にしていた。

書道部は作品の展示のほか、例年同様に演習室を一つ大書の部屋に仕立て、BGMと香で来場者をもてなしていた。

華道部は、生け花の展示を行っていた。今年にはデイズニー作品をモチーフにしており、見る人に花とイメージを重ね合わせるような工夫がなされていた。他にも多くの文化系部が展示をしており、今年の文化祭のテーマ「百花繚乱」に華を添えていた。

献血にご協力を

講堂付近では、今年も献血が行われた。日本赤十字社血液センター事業推進部献血推進課主任の高田洋輔さんにお話をうかがった。

皆さんが積極的に献血をしてくださること、提供された血液が

患者さんの治療に役立っています。とても素晴らしいことです。ただ、高校生に限らず、若い世代で献血をする人が少ないのが課題です。献血が可能なのは69歳までなので、今後の血液の提供量が心配です。ぜひ献血に



着ぐるみで呼びかけ

ご協力いただきたいと思います。

講堂内

初日(14日)の講堂発表では、今年も書道部、放送部、演劇部、吹奏楽部によるパフォーマンスが披露され、文化祭を彩った。

書道部は、文化祭テーマである「繚乱」を全身を使って力強く書き、続けて放送部による先生紹介のVTR、またコンピュータ部や演劇



平成のヒット曲をメドレーにして演奏した吹奏楽部

部と協力して作り上げたアクション映画を上映した。演劇部は、歌や演奏が奪われた世界での子どものたちの奮闘を描いた「ある小さな国の物語」を上演した。

吹奏楽部は、スーパーマリオや平成のヒット曲など、誰もが一度は聞いたことのあるなじみ深い音楽を演奏し、会場内を一体化させて大いに盛り上げた。

美・鈴・鈴・鈴

1930年、時の首相浜口雄幸が、東京駅で凶漢にピストルで撃たれる事件が起きた。その時に東大教授らが駅長室で輸血を行い、一時的に生命を救った

▼この事件をきっかけに、輸血という方法が広く知られるようになった。当時は「まくら元輸血」といって、

献血者を患者の隣に寝かせそのまま輸血する方法がとられた。しかしこの輸血法は感染症

のチェックなどが不十分で、実際に梅毒感染という事故を招いてしまったため、現在ではほとんど行われていない

▼血を売って対価を得る「売血」が行われる時代もあったが、現在では「献血」という、善意による血液提供が行われている

美高にも献血車が来た。献血は16歳から可能だが、年々若い世代の協力が減少しているという。また血液は長期保存ができず、有効期限もある。医療が発達した今日でも、まだ血液は人工的に造れない。命が救える身近なボランティア、献血。一度行ってみてはどうだろうか。

(木村京珠)

編集後記

文化祭が終わり、新聞部も一段落。期末考査に向けて頑張ろう。